

医療チーム

初の糖尿病週間 院外イベントを終えて

インスリンを発見したバンティング博士の誕生日である11月14日は、世界糖尿病デーと称し、糖尿病の予防・治療に関心を持っていただくよう、世界各国で様々なイベントが開催されます。



中部ろうさい病院では2014年から11月14日を中心とした1週間を「糖尿病週間」とし、糖尿病サポートチーム(糖尿病患者の治療や療養支援を実践するためのサポートチーム: DST)を中心として院内で健康相談やポスター掲示などのイベントを行ってきました。

そして今年度は、より多くの地域の方々に糖尿病に関心を持っていただくこと、「アピタ東海通店」にご協力いただき、血糖や血圧測定、In Body測定、医師・薬剤師等による健康相談、食事に関するクイズ&スタンプラリー、理学療法士による筋力アップ運動といった多数のプログラムを出張開催いたしました。

病院を離れて外で開催するイベントは初の試みであり、また、金曜日の午後という時間帯でしたが、多くの方に参加していただき「この次はいつ開催しますか」「参考になりました。また、行ってください」などの温かいお言葉



外来看護師長
鈴木 美代子



糖尿病看護認定看護師
平松 一葉

をかせていただきました。

日本の総人口の1割が糖尿病患者とその予備軍と言われていますが、糖尿病の重症化予防のためには早期発見・早期治療が大切です。中部ろうさい病院では、東海地区随一の機能を持つ「糖尿病センター」を中心に、院内外の連携を図り糖尿病の予防・治療にあっています。糖尿病は痛みなどの自覚症状が少ないため病院を受診されない方も多いようですが、そのような方が少しでも糖尿病に関心をもっていただけるよう、また、地域の方がご自身の身体や健康に興味を持っていただけるような楽しいイベントを今後も続けていきたいと思っております。

